

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立石薬師高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○ 自主…自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校 ○ 創造…地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校 ○ 敬愛…笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 基礎基本の学力を身につけ、主体的に学習に取り組み、生涯にわたり学ぶ力を育てる。 ○ キャリア教育を通して自己の進路について考え、社会の一員として貢献できる力を育てる。 ○ 豊かな人間性を身につけ、積極的にいじめ防止に向けて行動できる力を育てる。
ありたい教職員の姿	○ 互いに声を掛け合い、協力し合って、「チーム」として教育活動に取り組む教職員 ○ 授業を大切に、研鑽を重ねて、授業力向上に取り組む教職員 ○ 生徒に寄り添い、笑顔と元気を絶やさず、丁寧に粘り強く生徒の指導に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 ○ いじめや暴力のない安全で安心な学校 ○ 達成感や満足感が感じられる充実した高校生活 ○ 基礎学力の定着 ○ 進路実現 【保護者等】 ○ いじめや暴力のない安全で安心な学校 ○ 進路実現 ○ 高校卒業後の自立に向けた学力の定着と社会性の涵養 【地域】 ○ 公共心やマナーの育成 ○ 地域に貢献する人材の育成 【進路先】 ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成				
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="438 1377 949 1411">連携する相手からの要望・期待</th><th data-bbox="949 1377 1476 1411">連携する相手への要望・期待</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="438 1411 949 2078"> 【保護者等】 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 ○ 学校の取組や生徒の様子見える化 【地域】 ○ 地域に貢献する人材の育成 ○ 生徒の地域行事等への参加 【進路先】 ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 【出身中学校】 ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 【杉の子特別支援学校石薬師分校】 ○ 身近な共生社会として、学校行事等での両校生徒の交流 </td><td data-bbox="949 1411 1476 2078"> 【保護者等】 ○ 教育活動への理解と協力 ○ 学校との連携強化 【地域】 ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 ○ 生徒の地域行事等への参加協力 【進路先】 ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 【出身中学校】 ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 生徒が充実した高校生活を送れるよう連携を強化 【杉の子特別支援学校石薬師分校】 ○ 特別な支援を要する生徒の指導に係る助言 </td></tr> </tbody> </table>	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	【保護者等】 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 ○ 学校の取組や生徒の様子見える化 【地域】 ○ 地域に貢献する人材の育成 ○ 生徒の地域行事等への参加 【進路先】 ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 【出身中学校】 ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 【杉の子特別支援学校石薬師分校】 ○ 身近な共生社会として、学校行事等での両校生徒の交流	【保護者等】 ○ 教育活動への理解と協力 ○ 学校との連携強化 【地域】 ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 ○ 生徒の地域行事等への参加協力 【進路先】 ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 【出身中学校】 ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 生徒が充実した高校生活を送れるよう連携を強化 【杉の子特別支援学校石薬師分校】 ○ 特別な支援を要する生徒の指導に係る助言
連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待				
【保護者等】 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 ○ 学校の取組や生徒の様子見える化 【地域】 ○ 地域に貢献する人材の育成 ○ 生徒の地域行事等への参加 【進路先】 ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 【出身中学校】 ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 【杉の子特別支援学校石薬師分校】 ○ 身近な共生社会として、学校行事等での両校生徒の交流	【保護者等】 ○ 教育活動への理解と協力 ○ 学校との連携強化 【地域】 ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 ○ 生徒の地域行事等への参加協力 【進路先】 ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 【出身中学校】 ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 生徒が充実した高校生活を送れるよう連携を強化 【杉の子特別支援学校石薬師分校】 ○ 特別な支援を要する生徒の指導に係る助言				

(3)前年度の学校関係者評価など		○ 誰一人取り残さないという SDGs の目標は、杉の子特別支援学校石薬師分校と協働で始めるのが良い。 ○ 教職員の働き方改革を推進するためには、定時退校日を複数日からの選択にして、教職員自らが定時退校日を設定し、勤務時間を管理していくことが必要である。 ○ 進路指導やキャリア教育を充実し、生徒自らが将来の人生設計を考え、意識させることで、学校生活に意義を見出し、基礎学力と基本的な生活習慣の定着につながる。 ○ 生徒のコミュニケーション能力の育成が課題となっている。まずは、生徒に挨拶の習慣を身に着けさせることからスタートすると良い。
(4)現状と課題	教育活動	○ 学習習慣が十分に身につけていない生徒が見られることから、「わかる授業」を通じて、学ぶ楽しさを実感し、学習の仕方をつかむことができる授業づくりへの継続的な取り組みが必要。 ○ 安全で安心な学校生活を送るために、サポートを要する生徒がいることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門人材を積極的に活用することが必要。 ○ 教職員は、生徒の気持ちに寄り添いながら、丁寧で粘り強い指導をしている。教職員は問題を一人で抱え込むことなく、「チーム石高」の一員として、学校組織で対応していく気運を一層推進させることが必要。 ○ 生徒一人ひとりが進路実現に向けて、自主的・自発的に取り組むことができるよう、3年間を見通したキャリア教育の充実に努めることが必要。
	学校運営等	○ 教職員は、学習面や生活面等の教育活動を通じて、生徒に丁寧で粘り強い対応を心掛けている。それに伴い、教職員一人ひとりの負担が増している。業務の整理や効率化等による総勤務時間の縮減に向けた更なる取組が必要。 ○ 併設する杉の子特別支援学校石薬師分校との連携を拡充し、それぞれが持つ教育の専門性や機能を生かした取組ができるよう、交流や情報交換等、一層推進することが必要。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】		○ 生徒が学習することの意義を理解し、自主的・自発的に学習に取り組むことができるよう、一人一台端末を効果的に活用して、基礎学力向上に特化した学習活動や個に応じたわかりやすい授業を展開する。 ○ 生徒が社会の中で自分らしく生きていくために、探究的な見方・考え方について、教科を横断した授業研究を推進するとともに、図書館利用を促進して読書に親しむことで確かな学力や豊かな人間性を育成する。 ○ 生徒が進路実現を果たすため、本校独自のキャリア教育プログラム「サクラサク・プラン」を中心に、総合的な探究の時間における進路学習や事業所・関係機関と連携した体験活動を充実することで、3年間を通じたキャリア教育・進路指導を実践する。 ○ 生徒が互いに励まし合いながら成長していくための仲間づくりを大切にするとともに、自己の可能性や適性について自覚を深めるための働きかけを行うことで生徒の行動や意識の変容を促し、社会人として求められるマナーやルールの定着、コミュニケーション能力の育成を図る。 ○ いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくり、いじめの早期発見と早期対応を行うため、生徒によるいじめ防止活動への積極的な参加、いじめ問題解決に向けた実効性のある組織体制づくりを強化する。
学校運営等		○ 教科指導や生徒指導、進路指導等のすべての教育活動において、教職員が一体となって取り組み、やりがいを持って職務を遂行できるよう、教職員同士が日常から互いに声を掛け合い、協力し合うとともに、知識やノウハウ等を共有し、互いに教え合い、高め合うなど、「チーム力」の高い集団づくりを行う。 ○ 地域社会から信頼される学校づくりを推進し、学校が生徒にとって安心して楽しく通える魅力ある環境となるよう、家庭・地域と連携しながら、校内、学校周辺、通学路の美化活動や環境整備に努めるとともに、大規模災害に備えるための防災教育や危機管理体制づくりを推進する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 志望動機が明確で、高校生活に目的意識を持つ生徒 ○ 規範を守り、学校生活に積極的に取り組める生徒 ○ 基礎的な学力と学ぶ意欲を備え、向上心を持って学習する生徒
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力の向上・学習指導の充実	○ 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、ユニバーサルデザインの視点に基づき、全教職員が共通理解のもと、統一したスタイルで授業を進めることにより、生徒が安心して授業を受けることができるしくみづくりを進める。 ○ 授業やアサガク、その他活動における一人一台端末の積極的な活用と探究学習および観点別学習状況評価の充実を図り、生徒の学習改善につなげる。 ○ 授業力向上週間を設定し、生徒の学習状況を踏まえながら、教職員が教科を越えて学び合い成長するための授業研究を行う。 【活動指標】 授業の始めに授業のねらいと目標を明示するなど見通しを示している教職員の割合 100% 【活動指標】 教職員の授業研究への参加 1回以上 【成果指標】 学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をした生徒の割合 80%以上	○全教職員で「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」(以下、「システム」という)を確認し実践した。また、システムの点検と一部見直しを行った。 ○授業やアサガク等で、一人一台端末の活用を推進し、生徒の主体的な学びの実践に努めたが、定着に課題がある。 ○授業力向上週間では、互いの授業を見て意見交換し、授業改善につなげることができた。 ◆「本時授業のねらい・目標等を明記している」と回答した教職員の割合 92.9%(前年度 66.6%) ◆「授業見学の参加1回以上」と回答した教職員の割合 100%(前年度 93.5%) ◆「授業内容を理解できる」と回答した生徒の割合 77.4%(前年度 78.6%) 「授業に満足している」と回答した生徒の割合 88.3%(前年度 87.8%)	◎ ◎
生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の	○ 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、生徒への声のかけ方等、全教職員が一致した考え方で指導にあたり、生徒の心の成長を促す。	○「挨拶や声かけを生徒に対して行っている」と回答した教職員の割合 100%(前年度 95.5%)	◎

尊さを理解 しいじめの ない学校の 実現	○ 生徒の些細な変化を見逃さず、気になる生徒には教職員が積極的に声掛けを行い、必要に応じて面談や家庭と連携した対応を行う。 ○ 生徒理解を深め、潜在的に支援の必要な生徒や保護者等を適切な支援につなげることを目的に、スクリーニングを活用する。 ○ 生徒同士が、お互いの人権を尊重し、思いやりの心を持って、いじめや暴力のない安全で安心な学校づくりに努める。 ○ 模範生徒表彰制度を継続し、真面目に努力する生徒を激励するとともに、生徒の意識の醸成を図る。 ○ 挨拶運動や学校周辺の清掃活動等、生徒会役員等が中心となって、生徒主体の取組を推進する。 【成果指標】 学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合 80%以上 【活動指標】 校内スクリーニング会議の開催回数 3回 【活動指標】 模範生徒表彰の実施回数 3回 【活動指標】 生徒が主体となった挨拶運動の回数 3回以上 生徒が主体となった学校周辺の清掃活動の回数 3回以上	「生徒のよい言動を認めて声をかけている」と回答した教職員の割合 100%(前年度 100%) ○全教職員で取り組んだ。特に学年主任と担任が中心となり、丁寧な生徒や保護者対応を意識し、実践した。 ○県教育委員会の事業を活用して、客観的なデータに基づき、支援を要する生徒をスクリーニングし、必要な支援につなげることができた。一方、教職員の負担が課題である。 ○人権学習、いじめの未然防止や早期発見・対応に努めてきた。本校は、杉の子特別支援学校石薬師分校と校舎をともにしていることから、両校の生徒が安全・安全な学校生活を送れるよう、更なる取組が必要である。 ○表彰生徒の意欲の向上につながった。 ○今年度の学校マネジメントシートに明記したことで、意識して取り組むことができた。生徒が主体となった取組を推進し、安全・安心な学校づくりにつなげていきたい。 ◆「学校生活を安心して過ごさせている」と回答した生徒の割合 86.3%(前年度 87.0%) ◆6回実施 ◆3回実施 ◆挨拶運動 6回実施 清掃活動 2回実施 花いっぱい運動 1回実施 いじめ防止啓発(ピンクシール運動) 5回実施	◎
---	--	--	----------

キャリア教育(進路指導)の充実	○ 高校卒業後の自らの進路について、早期の段階から意識ができるよう、入学時から必要な情報を提供し、生徒の状況に応じたきめ細かな相談体制を構築する。 ○ 生徒が目標を明確に持って進路実現をしていくために、インターンシップや模擬就職活動を行う。 ○ キャリア教育計画「サクラサク・プラン」を見直しながら、系統的なキャリア教育、進路指導を実践する。 【活動指標】 個別・三者面談の実施 4回 【成果指標】 学校満足度調査で目的意識の有無について肯定的な回答をした生徒の割合 80%以上	○高校入学段階から進路学習に取り組んだ。3 学年は就職実現コーディネーターを積極的に活用するとともに、今年度新たに進路実現ウィークを設定し取り組んだことで、生徒の進路実現につなげることができた。 ○今年度 2 学年を対象に実施したインターンシップは、鈴鹿市役所の産業振興課と連携して実施した。また、生徒には企業見学や就職フェアへの参加を積極的に促した。 ○「サクラサク・プラン」の更なる充実を図るため、一部内容を見直した。 ◆4 回実施 ◆「高校進学のために学業や高校卒業後の進路」と回答した生徒の割合 91.4%(前年度 90.9%)	◎ ◎
改善課題			
・多様な生徒が在籍する本校において、「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」の定着が必要である。 ・学び直しとわかる授業の実践をとおして、生徒の基礎学力を定着させる必要がある。 ・人権教育の更なる推進が必要である。 ・本校と杉の子特別支援学校石薬師分校の生徒が、同じ校舎で安全で安心して学べる環境づくりに取り組む必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり	○ 教職員が互いに声を掛け合い、学年や分掌を越えて協力して教育活動に取り組み、情報共有を密にして、何事も一人で抱え込まないようOJTで学びあえる職場風土をつくる。 ○ 定期的にコンプライアンス・ミーティング、オフサイト・ミーティングを実施し、不祥事を許さない、風通しの良い職場づくりに努める。 ○ いじめの問題への対応等、多様化・複雑化する教育課題について、教職員の指導力と対応力を強化するため、教職員研修会を定期的実施する。 【活動指標】 コンプライアンス・ミーティングの実施回数 4回 オフサイト・ミーティングの実施回数 3回 【成果指標】 教職員を対象にしたアンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れているということについて肯定的な回答をした教職員の割合 100%	○生徒指導上の問題行動への対応では、「チーム学校」を意識し、学校組織での対応を実践できた。 ○教職員が関わる不祥事があるたび、朝の打合せで全教職員に共有し、注意喚起するなど、普段から不祥事を許さない機運の醸成に努めた。また、オフサイトミーティングを実施し、本校の教職員だけでなく、併設する杉の子特別支援学校石薬師分校の教職員とも話し合い、互いを知る機会につながった。 ○年10回来校するいじめ対応アドバイザー(弁護士・臨床心理士)を活用し、多様化・複雑化する教育課題に対する研修会を実施し、教職員のスキルアップを図った。 ◆4回実施 3回実施 ◆「教員同士で話しあったり、相談したりしている」と回答した教職員の割合 92.9%(前年度 95.2%)	◎ ◎

保護者、地域、中学校等との連携	○ 年度当初の保護者会で、保護者との連携体制について確認を行い、学校での生徒の様子、生徒の家庭等での状況について、保護者との連絡・情報交換を密にすることを確認する。 ○ 「すぐーる」を活用して、保護者あてに学校からの情報を確実に届けるとともに、生徒と保護者にわかりやすい情報提供を心掛ける。 ○ 地域社会に貢献できる人材育成に向け、更なる地域の事業所や関係機関との連携に努める。 ○ 杉の子特別支援学校石薬師分校との一層の連携をはじめ、地域の小中学校やまちづくり協議会と連携した行事などに積極的に参画する。 ○ 生徒が本校入学後に順調に高校生活のスタートを切ることができるとともに、途切れることなく必要な配慮や支援ができるよう、中学校等との情報共有を密にする。 【活動指標】 保護者懇談の実施回数 2回 【活動指標】 家庭連絡を密にしていると肯定的な回答をした教職員の割合 100% 【成果指標】 保護者対象アンケートで学校の様子がわかることについて肯定的な回答をした保護者の割合 80%以上	○年度当初に保護者との連絡・情報交換を密にすることを確認したことで、保護者の理解や協力を得やすくなった。担任を中心に、その日起こった出来事はその日のうちに保護者に連絡することを心掛け実践した。 ○「すぐーる」を活用して、学校からの情報を生徒や保護者に配信した。修学旅行中の生徒の様子を積極的に配信したことは、保護者から大変喜ばれた。 ○本校卒業生の約 75%が就職し、その多くが地元の事業所で就職している。 ○杉の子特別支援学校石薬師分校の文化祭、地域のまちづくり協議会が主催するイベント等に、生徒が積極的に関わることができた。生徒の活動が報道で取り上げられるなど、情報発信に課題がある。 ○生徒が安心して学校生活を送れるよう、支援の必要な生徒には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、発達障がい支援員等の外部人材につなげたり、中学校や関係機関と連携したりして、途切れのない支援に努めた。 ◆2回実施 ◆「家庭連絡を密にしている」と回答した教職員の割合 91.7%(前年度 95.5%) ◆「教職員が生徒一人ひとりにきめ細かい指導している」と回答した保護者の割合 84.2%(前年度 87.2%)	◎ ◎ ◎ ◎
教職員が働きやすい環境づくり	○ 教職員が心身の健康を維持し、意欲的かつゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間の削減に努め、休暇が取得しやすく、短時間労働に対応できる体制をつくる。	○定時退校週間を設け、定時退校日を柔軟に運用できるようにしたが、取得率に課題がある。また、前年度より時間外労働が増えていることから、削減に向けた取組が必要である。	◎

	○ 担任や分掌が担っている業務に見える化し、副担任や他分掌のサポートを増やすなど学校全体で業務に取り組む体制づくりを推進する。 ○ デジタル採点システムなどICTを活用した業務の省力化に取り組むとともに、過重となっている業務を見直し、校務のさらなる精選を図る。 【活動指標】 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% 【活動指標】 予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100% 【活動指標】 放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 時間外在校時間が年 360 時間を超える教職員数 0人 時間外在校時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0人 【成果指標】 一人あたりの月平均時間外在校等時間 10 時間以下 一人あたりの年間休暇取得日数 15 日以上	○毎日のショートホームルームは、担任だけでなく副担任も入って実施している。それぞれが担う業務の見える化は、各々は意識しているものの、定着までには至っていない。 ○一部の定期考査でデジタル採点を取り入れるなど、ICTの活用が進んでいるが、業務の省力化までには至っていない。 ◆「設定した日に定時退校できた」と回答した教職員の割合 54.3%(前年度－%) ◆100%(前年度 100%) ◆70.4%(前年度 80.6%) ◆7人(前年度0人) ◆46 人(前年度 12 人) ◆14.5 時間(前年度 12.4 時間) ◆15.5 日(前年度 17.2 日)	◎ ◎ ◎ ◎
--	--	--	-------------------------------------

改善課題

・突発的な生徒対応により、当初予定していた業務が、円滑に遂行できない教職員が少なくない。その結果、勤務時間内に業務を終えることができず、勤務時間外の業務の増加につながっている。

・定時退校週間を設け、定時退校日を柔軟に運用できるようにしたが、定時退校しにくい日に設定されているとの意見があることから改善が必要である。

・今年度は本校のホームページを積極的に更新するなど、情報発信に力を入れてきた。来年度は本校の取組を報道機関にプレスリリースするなど、更なる情報発信に努め、学校の魅力を外部に発信することが必要である。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・生徒指導上の問題行動への対応は、問題が発生した後の事後指導に追われているように感じる。生徒が主体となった取組を行うなど、未然防止に係る取組を推進していくことが必要である。 ・時間外勤務を削減するなど、教職員が働きやすい環境を整える必要がある。業務の見直しや定時退校日を実行性のあるものにするなど、改善が求められる。 ・併設する杉の子特別支援石薬師分校と良好な関係を築くためには、両校の生徒・保護者・教職員が互いのことを知り、理解することが必要である。そのための取組を両校で推し進めていく必要がある。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を定着させるため、次年度初めに全教職員で取組内容を確認する。また、教職員一人ひとりが各学期末に取組内容が実践できているか振り返る機会を設け、学校全体での取組状況を把握し、次学期での取組の改善につなげる。 ・生徒指導に係る対応では、教職員が一人で問題を抱え込むのではなく、学校組織(「チーム石高」)での対応を徹底する。 ・本校と杉の子特別支援学校石薬師分校の生徒が安全で安心な学校生活が送れるよう、両校の生徒会役員が中心となり話し合いの場を定期的に行い、具体的な取組につなげるなど、生徒が主体となった学校づくりを推進する。
学校運営についての改善策	・各月に設けられた定時退校日(定時退校週間を含む)に、教職員が定時退校できたか否かを管理職が正確に把握し、できていない教職員には個別で代替日を設けるなど、形骸化しない手立てを講じる。 ・今年度の学校信頼向上委員会の取組として、オフサイトミーティングを行い、そこで出された教職員の声をふまえ、業務改善につなげることができた。次年度は、その取組を一層推進する。 ・中学生やその保護者、地域の方々に本校の魅力を知ってもらえるよう、学校の取組を積極的に情報発信する。